



全被造界のいのちを心にかけて

2021年6月

親愛なる隣人の叫びは、私たちを、より深く更に遠い旅路へと
大胆かつ創造的に応答するよう駆り立てます。この世界は待っています。

2019 総会の決意

預言的・地球規模の人々

メリー・マグロウン CSJ 修道会リーダーシップチーム



私たちの何人かは、ミッションアピールの重大さに向けて夏はここに居るつもりです。
1930年代から米国全土の教区は、夏のある週末に宣教師スピーカーを招く集いを主催
するよう各教区を奨励してきました。シスターアイダ・ベレスハイムが初めての「ミッ
ションコーディネーター」となった1972年以来、大勢のシスターズとACOFが会を
代表して特に日本とペルーでの宣教活動を支援するよう教区の人々に奨励しました。

第二バチカン公会議と 1968 年にコロンビアのメデリンで開催されたラテンアメリカ司教会議に続いて、私たちのメッセージは、キリスト者は皆、宣教者としての召命と貧しい人々を優先するテーマに焦点を当ててきました。主な目的は貧しい人々の間に交じって仕事を支援するための資金を集めることでしたが、第二の目的とはいうものの重要なことは、洗礼が、私たち皆を福音宣教者になるよう、命じることを人々に思い出させることでした。

教皇フランシスは、フラテッリ・トゥッティ(52)で、COVID-19 の悲劇は「私たちが地球規模共同体であるという感覚を一瞬回復させたと思い出させます。…私たちの傷つきやすさを顕わにし、毎日のスケジュール、プロジェクト、習慣、優先順位を構築する際の誤った不必要な確実性を明らかにしました。」私たちは会として、家族や地方での死を嘆いています。又、ペルーの姉妹たちは白い旗を見て、その家に食べ物を届けたという報告がありました。白い旗は、そこにいる家族には食べ物が何も無かったことを示していました。これらの経験は、弱い立場にある傷つきやすい人々に対する意識と私たちがその一部分であり、同じパンデミックに苦しみ、以前の視野をはるかに超えたニーズに対応できるという真実を浮き彫りにしています。

パンデミックの被害が収束し始めると、私たちは総会のコミットメントを思い出し、ミッションに対する見解を更新する時間を取りましょう。私たちのカリスマと国際性は私たちの間で異文化であり、故郷から全世界に至るまで、あらゆるレベルで真の連帯を促進するよう駆り立てます。教皇フランシスは、一つにする愛 カリスマを共有する私たちに直接話しているかも知れません。「可能な限りの周辺は、相互帰属感覚にする継続的な冒険」(フラテッリ・トゥッティ 95) として私たちに愛を挑戦するよう求めています。その冒険を理解することで、私たちは預言的 地球規模的人になり、より深く更に遠くへと旅し、歴史の瞬間に大胆に対応する準備を整えます。それが、私たちのミッション使命です!